資料11－4

総合科学技術会議第１０回宇宙開発利用専門調査会
議事概要（案）

１．日時　平成１４年５月２３日（木）１０：３０～１２：３０

２．場所　中央合同庁舎第４号館４階　共用第２特別会議室

３．出席者　尾身大臣、桑原会長、石井議員、井口委員、久保田委員、谷口委員、中山委員、畚野委員、山根委員、山之内委員、事務局（大熊政策統括官、有本審議官、細見参事官）

４．議題（１）宇宙開発利用専門調査会報告書案について
（２）宇宙開発利用専門調査会報告書骨子案について
（３）その他

５．議事概要

【１．宇宙開発利用専門調査会報告書案について】

事務局より「資料 10-1」および「資料 10-3」を説明。

○　この報告書は行政文書。このようなものは最初から出しておかないといけない。冒頭には、従来の行政文書とは異なる趣のものを入れたほうが良い。「カーナビ、・・・」という現状認識はチープな感じがする。体制云々は資金の問題から来ている。リソースのサイズが小さかったということを書くべき。自在性という言葉は、いいように使われて、あれもこれもということになるので、記述をよく考えて欲しい。衛星のみでなくロケットも含めて、官民の役割分担を明確にすべき。産業化がうまくできなかったのは、護送船団方式のような体制にあった。産業界はおんぶにだっこで、官は権限を維持したがった。ロケットシステムとNASDAの関係が正にそうであった。責任体制の移管をきちんとやるということを明記して欲しい。

　自在性のある宇宙は必要であるが、この言葉をてこに、あちこちで予算をとろうという動きがある。自在性という言葉を残したいのであれば、このような議論があったことを議事録に残して欲しい。

○　１章の（目標と方針）部分に、設計・製造能力を国内に維持するという記述があるが、研究・開発も入れた方がよいのではないか。

○　輸送系に関して、本資料では再使用型輸送系という言葉がどこにもない。新しい形式の輸送系に含まれているのか。使い切り型のロケットが無くなる訳ではなく、再使用型輸送系も出てくると認識している。そもそも、将来の輸送系についての記述が「Ｈ－IIAロケットの民間移管」のところに入っているが、「長期を見据えた基礎的・基盤的研究開発」のところに書くべきではないか。

○　新しい形式の輸送系には往還型は含まれると認識。

○　再使用型の研究開発はやるべき。有人は危険だからという意見もあるが、しばる必要はない。

○　輸送系は根幹であるので、輸送系の部分で取り上げてほしい。

○　２．（１）②で「宇宙に活動の領域を広げる」とあるが、「宇宙に出て活動する」とすべき。これを入れた上で、再使用型の記述を入れるのがよい。

○　宇宙ステーション計画の当初の目的に有人宇宙技術の習得があるが、それについてあまり触れられていない。将来の輸送系には有人も含まれていると理解しているが。

○　有人までは含まれず、せいぜい往還機くらいまでと認識。この部分の記述はあくまで官民の役割分担について書いたものと認識。

○　次の点の修文を提案する。まず5つの目標の並べ方と重点分野の記述の並べ方に整合性がないので、目標の並べ方の順番をよく考えるべき。資金については「拡大」するとの記述が必要。人工衛星の開発利用のあり方の部分の冒頭で「宇宙利用は、科学、情報通信・・・」とあるが、科学が入るのは趣旨からいっておかしい。安全の確保の部分では、「この取組みを継続的に進める」とあるが、「この技術の向上を図る」とすべき。地球環境監視の部分で「観測データの系統的な収集・・・」とあるが、「画像情報を常時蓄積し、解析技術を向上する」とするのがよい。今後の総合科学技術会議の役割としては、フォローアップするのでは甘い。国全体としての政策決定をおこなうとすべき。

○　宇宙開発事業団を中心とした活動は宇宙開発委員会ということになっているので、調整なり連携なりとの記述を入れた方がよいのではないか。

○　民間に移管した後の技術まで考えると、範囲が広がるので、宇宙開発委員会で無理ではないか。

○　別表の目標であるが、宇宙は多くの資金を使用するので、国民への説明責任がある。そのような意味では、下の三つが重要であるが、格調高くするためには、知の創造や人類の話を前にもってくるのはよいと思う。

○　この専門調査会の趣旨からして、重要な順に書いた方がよい。

○　資源について民間資金を含めて考える必要はないのではないか。２．（１）①に「システムの整備を適切に推進する」とあるが「早急に」がよい。どこかにアンカーテナントを入れるべき。輸送系については、なんでも役割分担で民間、民間というと誤解を受けるので、打上げ、運用、射場の整備は国がというように明確に記述していただきたい。

○　準天頂衛星については、推進体制と費用分担について、国と民間で話しを詰めることが必要。

○　応用分野では国と民間資金が混ざっていかないといけないので、民間資金も考えに入れるべき。「システムを適切に」という記述は、官民の役割分担や、測位の問題、東南アジアへのサービスの問題などもあるので、適切にと書いた。アンカーテナントであるが、明確に書くとMUSTになってしまうので、工夫が必要。

○　アンカーテナントは、言葉をそのまま入れるかは別として、産業化のところで記述すべき。利用の拡大で書くのはよくない。

○　この報告書は読んでも、日本が何をすべきかがよく分からない。ジャーナリストがこの報告書について書くとすると、「宇宙開発は後退」、「有人宇宙の夢を捨てる」と書くだろう。確かにそれぞれの理由があって、ここでの議論は理解できるが、実際に携わっている人に元気が出るようなものがない。「取り組む」とか「図る」というのは、行政文書の表現であり、よく分からない。何が目玉

なのか、もっと具体的なことを入れて欲しい。まず、宇宙予算を増やすのか、減らすのか、スケールが見えない。打ち上げ環境についても触れて欲しい。種子島はよい射場であるが打上げ回数が限られる。キリバスを使わしてもらう契約ができているので、アジア各国と協力してやっていくというのはどうか。宇宙開発を支える技能者の問題なども触れて欲しい。科学についても記述があまりない。宇宙は一般の人への啓蒙活動も必要。この報告書の構成をちょっと変えて、最初にこの専門調査会では何をやるということをはっきり書いて、今できないことは何年後に再び検討するということでもよいのではないか。まず、１頁目を見ただけで興味を引くようなものがよい。

○　私がこの報告書を行政文書と呼んだ所以である。行政文書は役所のためだけではないはず。変えるのが無理なら、せめて冒頭の文章を工夫して欲しい。

○　宇宙はこれから誰でも身近に感じるようになるのが、究極の夢ではないか。宇宙を利用した教育、有人活動など、特別なものではなく、身近なものということがキーワード。

○　目玉となるものとしては、リソースが少ない中で、技術がここまできたということがある。利用の拡大ということもある。内容を何処まで広げられるかは難しいのではないか。

○　ＭＵＳＴではないが、政府がそこまで考えたのかと分かるようなものを書けばよいのではないか。

（事務局より「資料 10-2」を説明）

○　やはり夢がない。まず、宇宙に関係している人が少ない。まず、宇宙に多くの人を集めるように、敷居を低くするというようにやり方を考えるべき。

○　この調査会は宇宙開発利用専門調査会なので、夢を語ることは無理。期待されていない。宇宙はやはり夢がないとダメ。当面の問題としてこの専門調査会の使命があるので、これとは別に長期的な夢を考えられるような場を設けては如何か。総合科学技術会議のミッションとしてそのようなことを考えるべきではないか。

○　これまでの宇宙開発は技術開発の視点で行われてきた。これからは人文社会系の視点も必要であり、人々に身近に感じられるようなものでないといけない。資料 10-2 の2頁の基盤的研究開発項目の候補案は報告書に入れるものなのか。候補案に含まれていないものはどのような扱いになるのか。

○　総合科学技術会議ではそのような具体的な話は入れる必要がないのでは。宇宙開発委員会などの具体的にやるところで考えればよいこと。

○　予算の問題はやはり、ここだけでは決められないだろう。夢の問題は、結局、有人宇宙の問題で、再使用型などの輸送系もそこにいきつく。しかし、現実としては、有人は予算規模からみて当面は無理。有人を考えていきたいという気持ちはある。

○　宇宙をやる最終目標は有人。10 年より先のことを書くなら、当然書くべき。

○　有人と輸送系の問題は別。米国の輸送手段で（日本）人が宇宙に行くということでもよい。筑波にある宇宙飛行士訓練施設は米国に次ぐレベルのものであるので、アジア諸国の宇宙飛行士をそこで訓練するということもある。

○　有人飛行と有人滞在は別である。まずは、外国の輸送手段による宇宙滞在となるが、将来の有人飛行を入れて欲しい。

○　将来、有人宇宙を決断する際に問題となるのは、お金ではなく、人を危険にさらせるかということだと思う。今の日本のカルチャーでは無理。

○　30年後には、海外の有人宇宙技術はかなり進んでいるはず。そこへ日本が遅れて参入することの意義は何なのか。毎年、多くの人が海外旅行に行くが、皆米国製の飛行機で行っている。

○　飛行機を米国から調達できなくなったら日本は輸送手段がなくなる。同じ事が宇宙の世界でも起こらないとは限らない。そうなったらやりたいことができなくなるという自在性の問題である。

○　本気で有人宇宙をやろうとするだけの巨額の費用は投じられない。そうなると、国際協力になる。そのときに日本が鍵となる技術を持っておくべきで、そ

のため何をやっておくかのシナリオが必要。

○　そのようなものは、結局、国としての姿勢の問題である。

○　実力的には、欧米が圧倒的に前を進んでいる。現時点で可能性のある範囲で国際協力も含めて触れるということでよいと思う。

○　この問題は予算に加えて、価値観なども大きく影響する。簡単に結論は出せないので、今後議論の場を設けるということを盛り込むのはどうか。10 年間はやりませんということでは、今頑張っている人のやる気がなくなってしまう。

○　地球に関する情報をどうやって活用していくかということも重要。気象衛星などは、大きな効果があるはず。

○　利用系というのも考えなければいけない。観測衛星を使って地球環境問題に取り組んでいくというのも立派なプレゼンスではないか。

○　今の点は、現実的な問題として重要。

以上